

## 校長室だより No.27

# 学年担任という考え方をいれていきます

2022年 3月18日 柏市立土小学校 校長 梅津 健志

来年度に取組むことについてお知らせをしてきました。コミュニティ・スクール、評価の2期制の概要をお伝えしました。今回は、学年担任制という考え方についてお伝えします。

学びは多くの人との関わりの中で育まれていきます。明治以降約150年間小学校は学級担任という仕組みが一般的でした。この一人の先生が1学級の児童を1年間担当する仕組みから、学年担任という考え方に変えていきたいと考えています。学年担任制とは、2人の先生で2クラス全員を交互に行き来しながら育ていく新しい体制です。今年の6年生で実施し、子供たちにとっても、先生にとっても大きな効果があると実感しました。保護者の皆さんもどちらの先生とも関わっていただける形になります。子供たちの発達段階を考慮しながら、授業も受け持つ教科が月や学習のまとまりによって変わる教科担任制の形を取り入れていきます。5年生以上の教科担任制は国も推進しており、そのための先生の配置も行われ始めています。来年度は3年生以上で徐々に進めながら、低学年に対しては、子供の状況を見ながら進めていきたいと考えています。

コロナ禍や一人一台のGIGAスクール環境は、今までの学校教育の姿を大きく変えるきっかけを作っていると思います。自分が受けてきた教育を繰り返すことは、教育としては後退につながるとまで言われています。Society5.0という未知な未来社会で生き活躍する力を育む学校のあり方を、皆さんと一緒に考えながら進めていきたいと思います。テクノロジーが進化すればするほど、人としてコミュニケーションをする力がとても大切になると言われており、私もそうだと思います。また、多様性の世の中では、様々な価値観が存在する中で、目的に応じてその場にいる人たちが納得できる納得解を見出しながら進めていく力が必要だと言われています。このような子供たちの生きる力の育成に、教師の影響力は大きいことは、いつの時代も同じだと思います。

女性、男性、ベテラン、若手、さらに一人一人の教師が持つ個性、それぞれの良さを子供たちの教育に活かしていくため、一年間同じ先生から学ぶ学級担任制から、少しでも多くの先生との関わりを持つことにより、子供自身の見方・考え方が広がり、豊かな人間性育成につながるよう、関わる教師の特性を生かしつつ、学年全体が同じ歩調で学習していく、学年担任制という仕組みを取り入れ、土小学校の学習環境・教育環境の充実につなげていきたいと考えています。さらにコミュニティ・スクールへの移行に伴い、地域の皆様にも関わっていただくことで、より一層の充実を考えています。